

信楽園病院だより



第88号 平成20年7月1日 発行

〒950-2087 住所 新潟市西区新通南3丁目3番11号 Tel 025-260-8200 FAX 025-260-8199

E-mail main@shinrakuen.com ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

慢性腎臓病について

内科（日本腎臓学会認定指導医） 島田 久基

最近、大変多くの方に、潜在的に腎機能の低下がみられることがはっきりしてきました。軽度の異常まで含めると、高齢者を中心に、全国民の2割弱ほどに腎機能の落ちている方がいるといわれています。これから、慢性腎臓病の特徴について説明していきます。

〈わからないうちに進行する〉

慢性腎臓病は、自分で全く症状の自覚しないうちに発症することが多く、次第に進行していくものもあります。検診の血液検査で偶然に異常が見つかった時には、すでに腎臓の力が半分以下に落ちていたということもまれではありません。決して脅かすわけではありませんが、全く健康に見えるあなたの腎臓も、すでに悪くなりかかっているのかもしれない。

〈悪くなると元に戻りにくい〉

このような腎不全の原因となる病気は、糖尿病、慢性糸球体腎炎、高血圧など様々ありますが、10年あるいは20年かかって次第に腎臓の力が落ちていくことが多いのです。残念なことに、このようにゆっくりと腎機能が悪くなった場合、腎臓の力を元に戻すことは難しく、治療によっても、悪化のスピードを多少遅くすることしかできないことも多いのです。

〈早く見つけて治療する一尿検査が大切〉

したがってもっとも大切なことは、病気を早く見つけて、すっかり悪くなってしまう前に腎臓を守る治療を開始することです。それには、自覚症状のない人でも尿検査を受け、蛋白尿・血尿などの異常があれば、精密検査を受けることが重要です。精密検査は血液検査だけでは不十分です。なぜなら、腎機能が正常の3分の2位まで落ちていても異常値が出ないこともあるからです。1日尿による正確な腎機能測定や1日蛋白尿の検査が有効ですので、積極的にこれらの検査を受けましょう。そして、腎臓が悪くなりそうな状態なのか、治療しなくともよい状態なのかをはっきりさせてください。必要な例では早期に治療を開始することで、腎臓が悪くなる前に病気の勢いを押さえてしまうことも十分可能です。また、不幸にしてすでに腎臓が悪くなり始めている場合には、その原因疾患を十分に治療し、腎臓を保護する治療も加えることで腎機能を保つことが目標となります。

〈心臓病・脳卒中の予防も重要〉

腎機能の低下した患者さんでは、心臓病・脳卒中など、血管の病気を起こす頻度が一般の方と比べ非常に高くなっています。腎臓病の治療だけでなく、積極的に心臓・血管の病気の検査や治療を受けるようにしましょう。